Kadokawa Comics A

小宮和家

GO

ゴ

嬉しいぜ…

ゴゴ

俺に盾突く
生きの良い
馬鹿がまだ
居やがったか…

ゴ

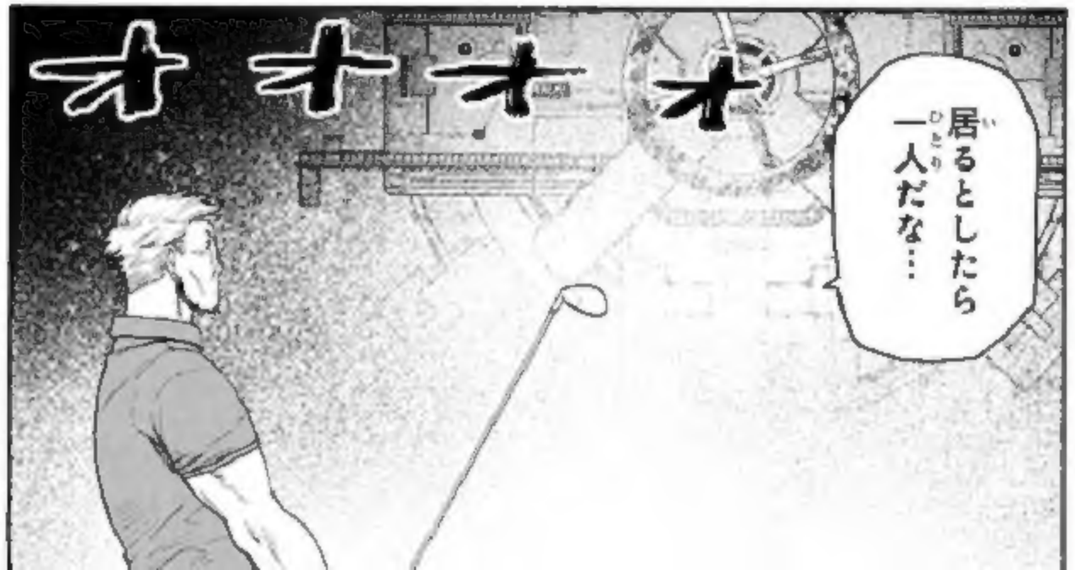
だが口振りからして
下座に座りてぇのは
お前じゃねぇな
ブラッズ…

いったい誰を
座らせたい？

第26話♠怒り＋眼鏡＝ビシッ

オトメヨウキ

小玉有起



CONTENTS

第26話♠怒り＋眼鏡＝ビシッ…001
第27話♠お好み焼きミックス…039
第28話♠スーパーヤング…073
第29話♠呪いと誓いの四畳半…107
第30話♠ダークヒーロー…141

……
それは…？
教えねぇよ…
お互い様だボケ
きて…と
ズッ
ゲシ
オオオ
楽しい宣戦布告が終わった所で…
お前の処分を決めようか…
まさか俺の部下をボコしといてただで済むとか思ってねぇよな？
ええ…
私のした事を考えれば死罪は免れないでしょう
ただ…あなたを超える王を連れて来れるのは私だけです
おいおいまさか そう言えば殺されねぇとでも思って来たのか？
逆だろ… それはつまり今 お前をここに寝かせて
あの扉まで首をフッ飛ばしとけば誰も来ない…
「玉座は安泰ですよ」って言ってる様なもんだ
宣戦布告の意味も無く一件落着
めでたしめでたし
だろ？
……

カチャ
カチャ
カチャ

ワイッ

ゴイルさんは
コンピューター使えて
ゴイスーっすね

楽しーースか？

クルクル

今話し
かけないで
くれ

カタカタ
カタ

チョットっつって
もーけっこー
たってんすけどー

そろそろナイスメガネ
迎えに行かねーと
マジーッスってー

ああ君は
行っててくれ

何スか
もー——

じゃあ あいつ
出てきたらデキトーに
拘留しとくんで

そのハッキング
とかいう調査
終わったら
来て下さいね

ああ

……おそらく
奴は生きて
出て来ないだろう…

パントマイムとかいう男の
観測データに通話記録に…
襲撃予定時刻まで
言い逃れ出来ない黒い事実
真っ黒な証拠が次々出てくる…

こんな情報を堂々と
バップラドン・アーキス
確保の報告書に
混ぜて提出してる
なんて…

どうかしてる
……

王が奴を呼んだ
理由は間違い無く
この件だろう…
……しかし何故？

奴もそれは
わかっていた
はず……それなのに

何で
わざわざ
殺されに来た？

えぇ…
そう思われるのは
至極当然でしょう…

こんな首輪まで
付けられた無力な
私の首を刎ねて

あなたの怒りが
収まるのなら…
どうぞ殺して下さい

…フン

言っとくが…

俺はこれでも
超ブチギレてる

知ってます

だからこそ冷静に
三日待ってやる

お前のそのうすら笑いの裏の

自信に繋がっている
男を連れて来い

そしたら
それを

お前ごとな

粉々に打ち
砕いてやる

一週間は
欲しいですね…

駄目だ

三日で
万全の状態に
整えられねぇなら
今殺す

わかったら
もう行け

……フッ

そのせっかちな所…
昔と変わって
ないですね

ブラッズ…
お前は俺の性格を
よく知ってる所が
実に腹立たしい

お互い様です

ガーーーン

では失礼…

今は殺せるわけ無いって面してたな…

だが王の事は何もわかっちゃいねぇな……

たしかに俺の事をよくわかってやがる

話すべきだったか…？

イン…

おう

やあ待ってて くれたのかいハニー

てめえ…

わざと言ってるだろ

おちょくってんだろ？ なあおいメガネ

あれ？ 今回はガムがバアンってしないんだね

テメーのメガネバアンしてやろうか!?

ほら来い

メガネにピッタリの部屋に案内してやるよ

それメガネケースって言うんじゃないかい？

だまってろ

入れ

……

すぐにゴイル部長が来る

お前に話があるそうだ

ツゥ

？ どした

釘が出て指を切った

まずい

釘？ んなもん出てねぇぞ

何だっていい！ とにかく切れたんだ

ほら…

うわあああ

ブシッ

！ バクン

助けてくれ!! 死にたくない!!

そ…

そんな事言ったって… 魔力の放出をやめろよ!!

言っただろ自分じゃ止められない!! 自動的に修復してしまうんだ

はずしてくれ！ 首輪を…!! 早く!!

……

早く!!

ありがとう

君は
やさしい子だ

首輪のおかげで
「殺すに値
しない男」に
なれた事も
感謝してるよ

それで最高の
コンディションの
体と戦える…

万全にして
欲しかったのは
こっちの方ですよ
ウルフダディ…

……しかしながら

予定より早く研究室を
後にする事になった上に
三日後の期日か…

シュウ

治ったな…

急がねば…

舞台は整った…

後は役者だ…

ゴゴゴゴ

何て事だ…
ブラッズを待ちぼうけてるだろうベロス巡査を迎えに行ってみれば

カッ
カッ
カッ

巡査なうさっき降りて来た男を拘留室に連れて行きましたよ

降りてエレベーターを
そんなはずは…
ただと…

!

まさか…!?

巡査(じゅんさ)!?
ベロス巡査(じゅんさ)!!

…そんな…
ウソだろ…
ベロス巡査(じゅんさ)——!!

う…
う…

……ブラッド・D・ブラッズ

よくも…
よくも俺の可愛い部下を…

ビシッ

絶対に許さねぇ…

俺がブッ殺す!!

王が生かしたとか
カンケー無え

殺す殺す
殺す殺す

百回殺す!!
千回殺す!!
万回殺す!!

ドンドン殺す!!
まだまだ殺す!!
どこまで殺す?

どこまでも殺す!!
追いかけて殺す!!

ゲンゲン

ガン

オエエエエ

ドバ

特権魔術…

怒りの矛先

アングリースピア

生み出される怪物の強さは僕の怒りの強さ

さあ僕の怒りが向かう先へ!!

今から一緒に!
これからブラッズを!

ん殴りに行こ――ぜえ――!!

YAHHHH

ピク

ピクッ…

チャゲ

ハッ!

ベロス巡査…本当に惜しい部下を亡くした…

仇は必ずとってやるからな…

行くぞ僕のアングリー!!

YAH!!

ゴゴゴゴ

…やはり…

あの首輪は
ただ拘束する
だけの物では
なかった…

放出した魔力を食う犬が常に内包されているという首輪の

能力の維持費がどこから来ているのか…

それは私の体内の魔力だった…

つまりあの首輪は身に着けているだけでも魔力を消費する首輪

ヘロスが呪いと言った真の所以はそこにあった…

直接対決を避け眠らせたのは正解だったな…

シーークク

リズの寝つきが悪い時に効く「おやすみ草」が

まさかこんな時に役立つとは…

しかし…

このままでは吸収まで魔力がもたない

どこかで休まないと…

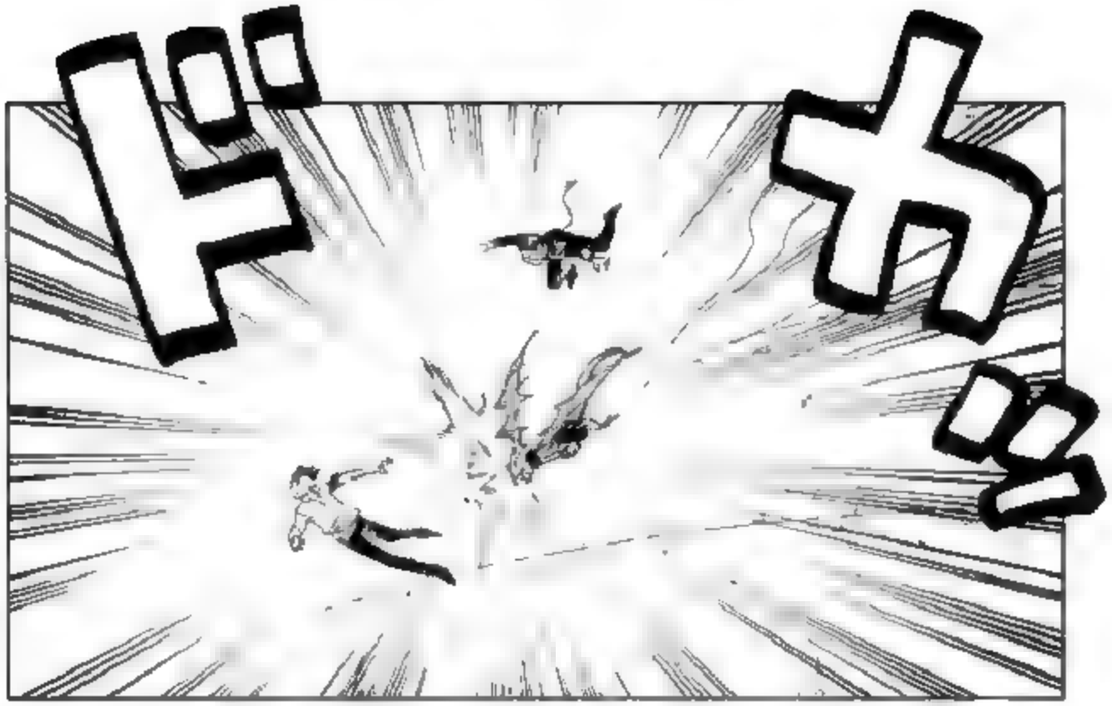
コポォ

追手が来る前に…

見つけたぞブラッズ!!

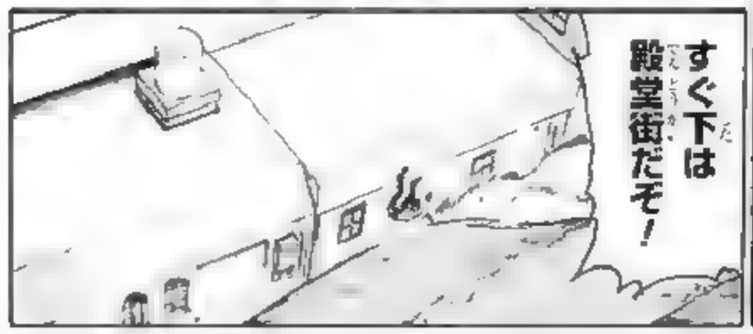
!

ボガーン


ドカ!!

がっ

!
馬鹿野郎!!
斜面でタックルしてどうする!!


すぐ下は殿堂街だぞ!

ゴロゴロゴゴゴ
あ

ビビビビ ビビ
ジリリリリリ
！
もしもし？
リズか？私だ
兄様!?
今どこだ？
お屋敷、シグソーパズルしてた
よし いい子だ
実は今、追われている
え!?
だから時間が無い手短に話す
今から殿堂街まで斧を持って30分で来てくれ
着いたらリズの好きなアイス屋の前で待ち合わせ…いいね？
うぅ…うん わかった…!!
私はそれまで何とか身を隠す 急いでくれ
お前だけが頼りだリズ

ムワッ
やあマドモアゼル
素敵な女部屋だね 壊してしまってすまない
後で弁償するよ
おいしいダージリンだ 淹れ方もいい
あこれ君のケータイ？
ちょっと借りるよ
ゴクゴク

うん！

それじゃあ30分後に

ピッ

パタン

ブラッズ!!

ちくしょう どこ行った!?

隠れても無駄だぞ!!

30分・・・

それだけあれば魔力の回復がかなり出来るが

ガラッ

うお

何だいあんた

十分

それはよかった

モガ!?

失礼

どうしても漏れそうだったもので

だからって窓から入ってくる事ないだろう

出し終わりました？

ああ お陰様でね！

うむ

ズルズル

キィ

手洗いは夢の中でしたまえ

後は奴から逃げ続けられるかが問題だ・・・

ドゴ

ドゴ

バッ

すぐ行くから…

捕まらないで…!!

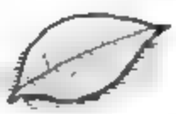
ッヤアアア

待ってて…兄様!!

ゴゴゴ

キャア
バラ
バラ
ちょっと
あんた!?
何するのよ
ス。
バカな：
あれから
変装の練度も上げ
日々たゆまぬ研鑽に励むのに！
何故わかる
キャー
おい
アングリー
やめろ!!
バクバク
YAH—
あの生物か…!?
私の
わかる
のこる
か
向
!?
が
だとしたら
マズイ…
こっちか！
YAH！
ど30分
ここ
から逃げ
じゃ
きる
ない…

おやすみ草



レア度☆☆

匂いを嗅ぐだけで
とてもリラックスして
あまり嗅ぎすぎると
眠ってしまう葉っぱ。
ハーブティーに少し
入れるといいらしい

アラッズ…
君の事は
色々調べさせて
もらった…
バサッ
何故…王が君を
生かしたかはわからないが
僕の部下にした行いの
罪は償ってもらうぞ
ズ
ブア
ゴウン ゴウン

第27話♠お好み焼きミックス

ドドド

バッキィィン

ビジッ

ビジッ

逃げるのは不可能か…

グッ…

結界か？悪あがきはよせブラッズ…

僕をイラつかせるのは逆効果だ…

ビキッ

君は思い違いをしている！

私はベロスに危害を加えていない！眠らせただけだ!!

ビキ

力が強まっていく…

ま…待て…!!

……

黙れ…

ビキ

…今度は弱まった…？

ビキ

現場に残された血は私のものだ…信じてくれ

ビキ

うるさい…

バキッ

しかし…もう…

私の魔力が…

まだ間に合うぞ
ブラッズ…

王と何を話し…これから何をしようとしているのか洗いざらい話したら…

ボタ

ボタ

吐いて欲しいのは血じゃなく情報だったんだが…

命だけは助けてやろう

フッ

ガハッ

ドガ

わかった…

…何？

賢明な判断だ

違う…

わかったのは君の能力がどんなものか…だ

フラ

フワ

ズーザ

！

ヌゥ…

ビシャッ

ビシャッ

ビチャ

ビチャ

ビチャ

ドガッ

血が…!?

子供騙しだな

そんな力で僕をどうにか出来ると思っているのか？

いいや思っていない

見ての通り私は貧血でフラフラだ

とても君と戦える状態じゃない…

？

だからこそこれを見せた

この力は私の血であれば

どこにあっても操作可能だ

スケッ…

つまり

ここからでも届くんだ…

ベロスの寝首にくらいは…

紹介しよう…

これが私の特権…

ズ

ズ

彷徨える血液（ブラッドストーカー）だ

自らの血を操り…

自在に動かす事が出来る…かわいいだろ？

フッ

ビィ…

何を出したかと思えば…

ッ……

ガッ

シオシオ

ハッタリだ

やはり力が弱まってる

どうしてそう思う？

君はベロスが死んだと思って怒ってたんだろ？

無りや不安が

怒りを鎮火する

ハッタリかどうかを気にするなんておかしいだろ

シュウウ

少し…冷静に頭を冷やしてから話さないか？

お互い…

アイスクリームでも食べながら…

ペロ

どうかな？

このクソメガネ

……

そんな事ありません

とても素晴らしい自慢の兄ですよ

そうそう
そんな感じよ

……

うん
うん

できれば
殺したいですけとって
言っちゃだめかな

駄目だよ

気持ちは
わかるけと
ママはブラッズと
暮らしいの。

あんたが
弟なのも
バレてんだから
ちゃんとして！

…つうか
よ…

いつ出て
くんだよ

入ってかれこれ
30分くらい
経つぞ…

いったい
何の用なんだよ!!

だから気にするなって

他人なんでしょ!!

ギィ…

あと入って
来てもいい
そうですよ

え…

……あの

まる聞こえ
です……

#11

まったく
あんた遅ったら
せっかく冬実の話を
聞いてたのに

少しでも
おとなしくしてるって
事が出来ないの？

僕達って
いうか

こいつ
単体でーけど

はじめまして
奥様おキレイですね

吸血鬼の
スタズと申す者で
ございます

兄がお世話に
なっております

娘さんを僕に
下さい

お止まれ
バカ!!

……

あんた達…

頭の中で録音
しておいた台詞を
サンプラーみたいに
出力するな!!

?

何キョトン
としてんだよ!
っていうか最後の
どういう事
だよ

ちょ ちょっと
皆さん
おちついて

アッハッハッハッ

何をしてたかと思えば!!

外でそれを練習してたの？

あーおかしい

あなたがスタズ君ね…ブラッズから聞いてるわ

あ…どうも…

冬実を…

生き返らせようとしてるってね…

蘇生を頼んでたんでしょブラッズに

それを聞いて私が止めたの…

駄目よ…冬実は私のもの…

勝手に生き返らせたりさせないわ

ドッ

生の血が吸いたいなら…

私のを吸っていいわよ…スタズ君♥

ドッ

ほら…

ゴクッ

何だ…この感じ…

まるであの時と…

同じでしょ

ちょっとママ!!

はいはい
自分に魅力が
無いからって
妬かないの

そーいう事じゃ
ないわよ!

保護の前で
やめてくれよ
母さん…

そうそれ!
今ネルが
言ったやつ!

やめてよね!

……

どういう
事だ…

この女は…

…ところで

ドッペルゲンガー
って知ってる?

世界のどこかには
自分とそっくりの
もう一人の自分が
居て…

それを見たら
死んでしまう
ってやつ…

あれは
正しくは

死ぬんじゃ
ないの…

パラ

あった

みんな
こっち来て

いいものを
見せて
あげるわ

ヘルが2、3歳の時の写真よ
ちょっ
何でよ!!
かわいいく

今と変わってねぇな
ほっといてよ!!
いや…

私が…でしょ?
ああ…見た目は違うけどこの時から
まるで歳をとってない

そう 私はずっとこの時のまま…
へ~~~その比較対象として私を使ったわけね…
ありがとう
で? 何? 私はまだまだ現役よ的な事を言いたいわけ?
ちょっと姉ちゃん…
あ…あれ? この場所…

私はここで働いてた
え…

こっちの写真の…このお店…知ってます!
お好み焼きのひろつぐね
そうです! ウチの近所でよく父と行きました

お好み焼き
ひろつぐ
お好み焼き

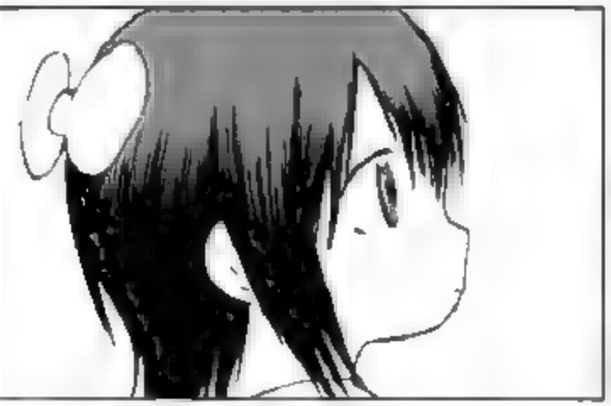
その頃の私はお好み焼きブームでね
それでよく魔界から人間界まで食べに来てたの

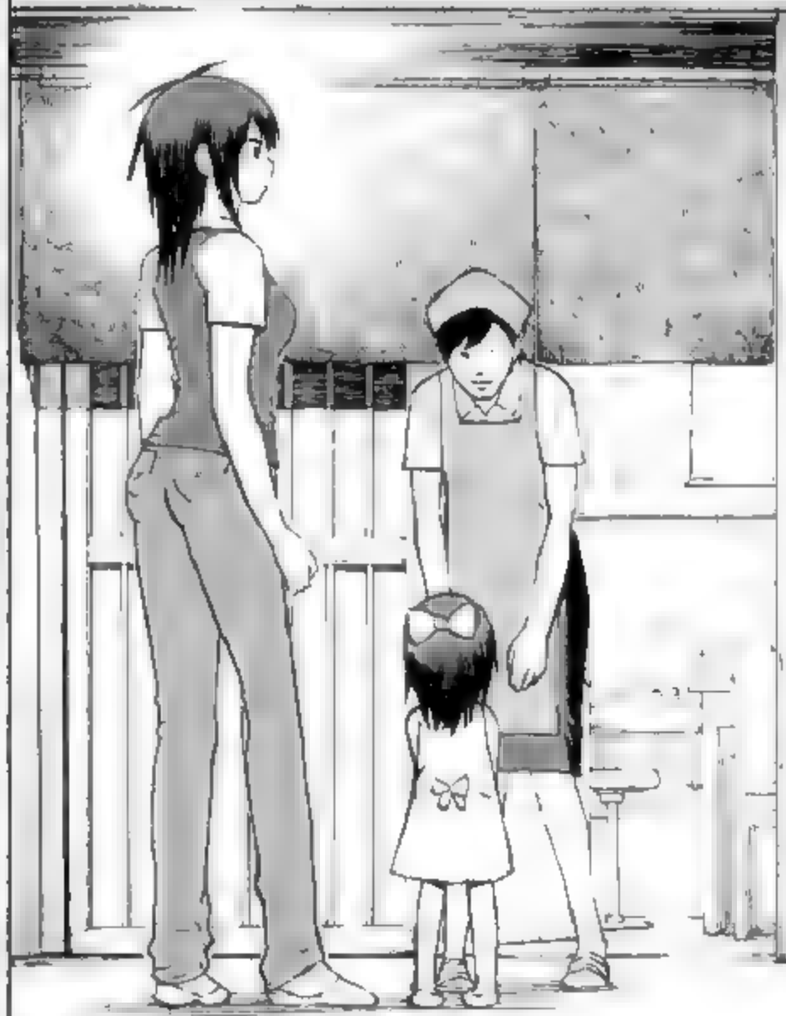
ほら行くよ
それしゃあ本当に今までお世話になりました

まーた変な飾してー
ウヒヒヒヒ

ああ元気でね…
冬実ちゃんも

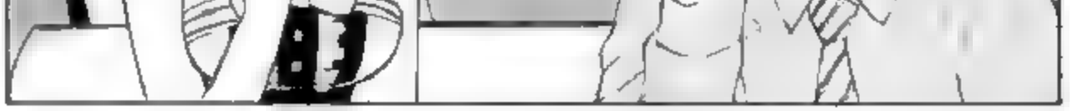
ふるさと

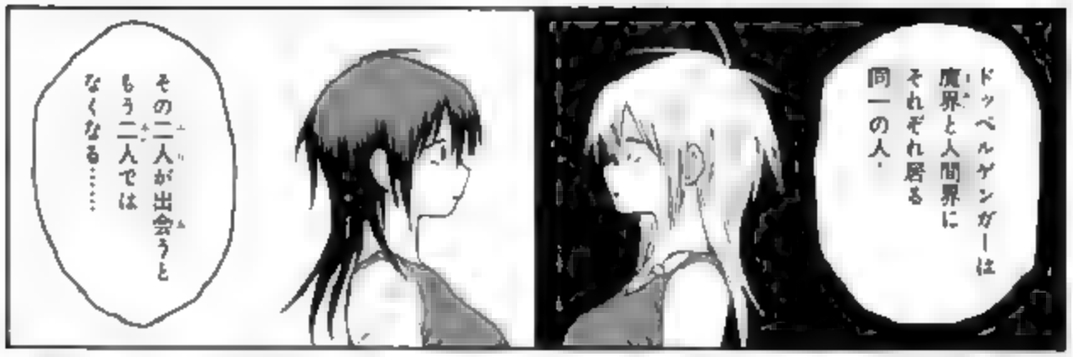




私達は…

その時はじめて会ったのよ…





魔界の記憶も…
人間界の記憶も…
すべて一つに重なり

私は魔界の子と
人間界の子を同時に持つ
一人の母となった…

ベル…

冬…実…

…それじゃ私達って…

姉妹…？

ええええー!? 何で!?

じゃあ続きはまた明日ね♥

どーん

パタン

そういう事…

こんなショッキングなカミングアウトをまるで絵本でも読んで聞かせた後みたいなテンションで!!

おそろしいよあんた!!

あ ああ あの 待って

おいちょっと!!

明日は二人のパパの話ね

イーミル

フフフ… あんた遺動揺した時の反応が正反対ね

グィッ

まったく誰に似たのか…

それまで各自好きにしてていいわ

アイルビーバーック♥

何か
アイルビー
バーックよ
……
あんなノリノリの
母さん久しぶりに
見たよ…
しかしまさか
姉ちゃんが
二人居た
とはね
全然似て
ないけど…
まあ…
遺伝子は…
受け継がれて
るのかな…
どこ見て
言ってんのよ
このエロ
ガッパ!!
ドドドドド
ちょっわざわざ
胸に
来ないで!!
……
そうか…

あの時感じたものの
正体は冬実と同じ血か
……
同じ
ああ
その通りのはずだ
でも何かが
違った
母親は半分
魔族だったから…
だから魅力も
半分
そういう
事か…
いやそんな
単純じゃない
冬実が持って
いる何か…
そういえば…
冬実
お前
もしかして
処女って
やつか?

…おや？

大丈夫？フユミン

は…はい 幸い無傷ですんで…

まった～

ガラン ガラン

ナルプル

いつもこいつも…

そうじゃなくてさ…

ブラッズの一つってた事はこれだった

私達の事とか…

ママの事とかさ…

ウソみたいだけどフユミンは私の大切な…

姉妹だった…

…そうですね

正直…突然すぎて何が何だか…

まぁそれは魔界に来てからずっとですけど…

あの人がお母さん

わからないんです…

いろんな事がありすぎて…

どうしたらいいか…

ス…

どうせ生き返ったら忘れるっしょ！

ゴッ

え…

そんくらいの気持ちでさ…

あんま重く考えない方向に進んでけって事

ゆっくりでいいからさ

あーあ…

すっかり義さんの術中にハマってるよ

姉妹の義時をゆっくり深め…

少しずつされる告白を何日もかけてゆっくり固いさだめ…

どんどん帰るタイミングを失う…

そして
止まなく
させる気だ…

小さき逃る事すら

#777

ま…僕はどっちでもいいけどね…

姉ちゃんが人かぁ…

俺は…

人間の冬実の血が吸いたい…

本当にそんだけなんだろうか…

そしてここは…

どこなのだろうか…

スゥ…

まあいっか
どうだって…

俺の目的は
変わらない

冬実を生き返す？

オ

オ

オ

そんな事
出来ないわよ
スタズ…

あなたも
すぐにそれが
わかるわ…

ひろっぐのお好み焼き

レア度☆☆☆☆☆

人間界でもごく一部の
島国でしか食べる事が
出来ない「お好み焼き」。
その中でも名店と呼ばれる「ひろっぐ」の味は
地元に愛され続けてるらしい

第28話♠スーパーヤング

僕はいらん!!
お前から
もらった物なんて
食えるか!

じゃあ
ナッツの方を
私の
オススメだ

いらんと
言ってるだろ!!

ペロペロ

あっ

コラ!!
アングリー
やめろ!!

ハハハ
君の特権
随分可愛らしく
なってしまったね

この野郎 全治ふり
やがって…俺位い
すてたと思ってんのか
家柄か良いってだけで
部に人を見下しやがって
だいたいミックスベリーって面かよ!!

ペロスが心配かい?

……

ギロッ

?

ヤー!

駄目か…

ペロペロ

ケラッ

ブン殴るなぁ

殺してえなぁ…

やはり
ペロス巡査の安全が
確保されない事には…

僕の怒りは
この有り様…
奴に主導権を
にぎられてしまっている。

さて…時休戦にまでは
持ちこめたが魔力を限界近くまで
消費してしまった…

回復を待っていたら先に
ペロスが目覚めてしまうかもしれない…
そうなればもう手はない。

早く下を
覚ましてくれ、!
ペロス巡査…!!

急いでくれ
リズ…!!

この気まずい
空気を何とか
してくれ…

ヤー!

バサ

バサ

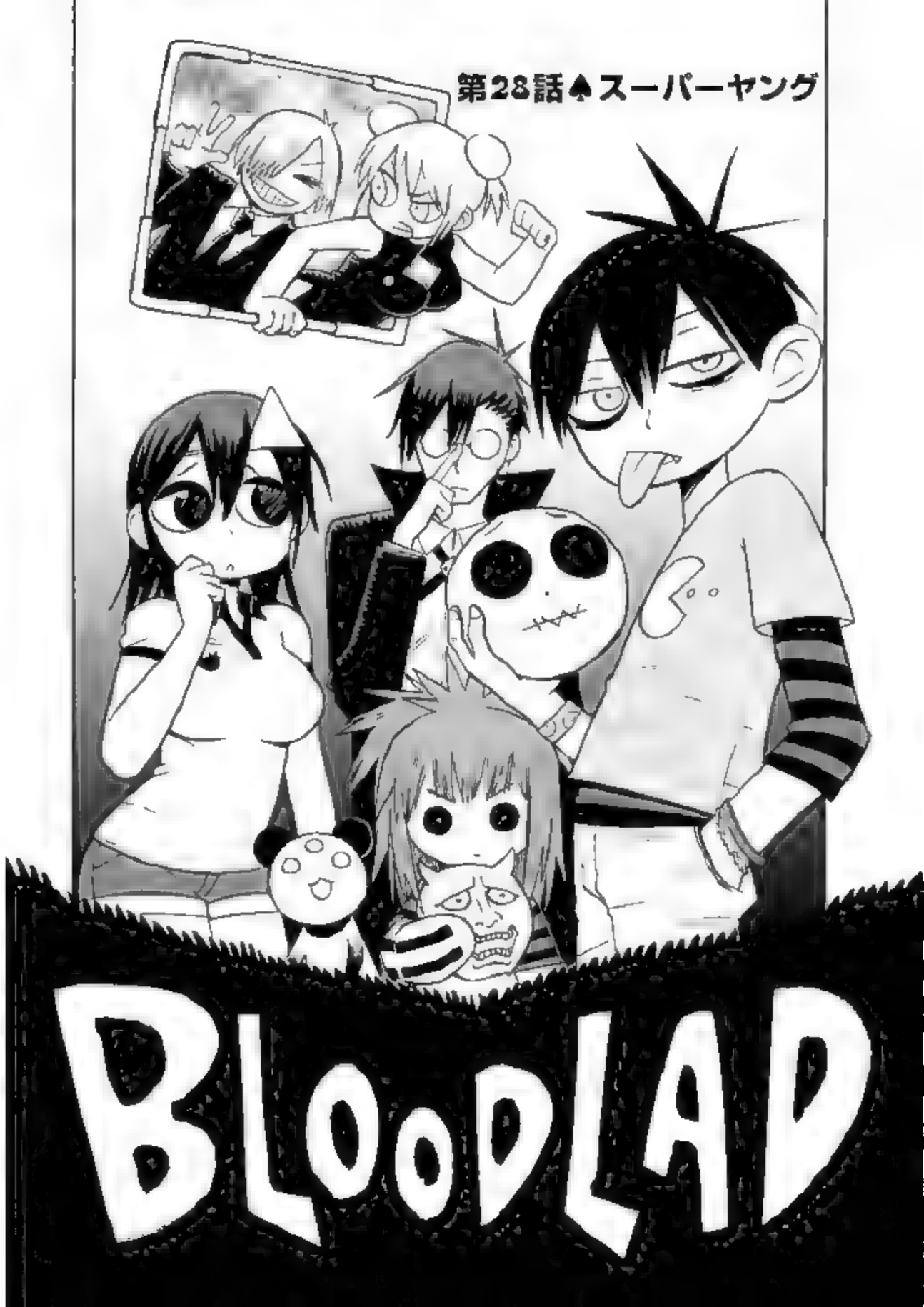
フワッ

バサ

バサ

おいボウズ

第28話♠スーパーヤング



うおお何だ!?
バサ
バサ
俺の脳で
随分気持ち
良さそうに寝てる
じゃねーの
あ…
ああ この島
あんたの巣?
ここだけじゃ
ないぜ
このハイドラという
空間…すべて
俺が作った
亜空間だ
バサッ
そして俺が
その主
ハイドラ・ヘッズだ

ズズズ
ショボボ…
ブゥン
……
ズズ
ああ こっちだ

人型の方が話し易いだろ

I ♥ NEYN

俺も見易いーし

ボリボリ

な…なんつう変態スタイルだ

俺の空間だからな！

HAHAHA

こうして全力でくつろいでるわけだ!!

だからってそのスウェット…ヨレまくりじゃねぇか…

すこぶるくダセェ

ああ 新婚の時から着てるからなコレ！

スゲェだろ

それはスゲェけど…

もしかしてあんたが…

ベルの親父か…？

ブン

もしかしなくても俺が親父だ

スト…

I ♥ NEYN

あいつの力は俺から受け継がれてる

ネルの方はネインが人間と融合してから生まれたからいまいちだけどな

ゲバゲバ

一人共俺の可愛い天使達って訳だ

……

冬実はどうなんだ

ああ…あいつは俺の娘だ

ブン

ボイ

だが…

ネインと話し合った結果 俺達は

ここの子にしようとしてる

ズズズズ

止めたいか？

ゴゴゴゴゴ

そのために来た

逢えな

正しくは「連れて来てもらった」だろ？ボウズ

ベルが男を連れてくるなんて初めてだ

普通なら喜んで歓迎してやるとこだが

ゴゴゴゴゴ

でもお前の本命は

柳の娘だろ

冬実様

はい!?

コーヒーいかがですか？

あっいえおかまいなく…

……

この人

？

お父さんのドッペルゲンガーだったんだ…

きっとお母さんは人間界のお父さんと会わせないためにここで雇って…

あ…あの…

ネイン奥様とは…

ど…どんなご関係なんですか…？

ズゴゴゴゴゴ

いきなり何言ってんのフユミン!!
浮気!?
浮気を疑ってるの!?
ちっ違います
そういう意味じゃ

ああもうベルさん…
ちっ

奥様といいますか…
私をここに置いて下さっているのは旦那様の方ですよ

え…
柳は…

今から14年前…

俺がこの世で唯一…
恐れを抱いた男だ…

あ　もうラチが
あかねぇよー

ゴロゴロ

このやりとり
何回してんたよ
伶達!!

嫌なら一人で
魔界に帰れ

イヤだー
――!!

あの
もうけっかくたし
結婚しゃう
っていうのはどう?

こんな奴と
一緒に
住めるか!!

それにこれは
僕達だけの問題
じゃない…

子世代の
今後に関わる
大事な問題だ

いてよ
ぶらっく
かーてーん

オッ

そうだな…
っておい…
ベル?

こっちだ!
ついてこい!

まってぇ

ベル!!

…僕だって
妻を…

大事に思ってる

俺は
ネインちゃんを
愛してる

よしじゃあやっぱ
どっちがネインちゃんに
ふさわしいか
決めてもらおうや

え　いやだから
そんな簡単には
人形好きだし

こんな地味そーな
マジメ野郎のどこが
いいんだよ

マジメな所が
いいんじゃない

こんな不真面目な
アキトー男の
どこがいいんだ

アキトーな所が
嫌で
しゃない

どっちなんよ!?
だい!?

驚いた…

今の見たか？
こいつ俺の出したカーテンの位置に真似して出しやがった
この歳で…
天才だ!!

素直
あなたのそーゆーたわ
褒めてやる場面じゃないだろう

え？

I ♥

魔界に繋がってたんだぞ…

人間の冬実も行くところだった
僕達の見ている前だったから
良かったものの…

そうしゃなかったら？

……あ…

わかったろ…
一緒に住む事は出来ない…

人間と魔族

この二人を同じ環境で同じ様に育てるなんて無理なんだ…

僕は冬実を
人間として
育ててやりたい

何も特別な事は
出来なくたって
いい

たたあたりまえの
環境で普通に
育ってほしいんだ

…

だからもし…
この先…

それが叶わないのだとしたら？

I ♥

冬実は僕一人で育てる

シビレた…
I ♥
NEYN

自己中だらけの魔界では絶対に聞けない台詞だ！
あいつは自分の人生よりも娘の未来を選んだ…
妻を不幸にしたら
お前を討さない
本当は妻を俺なんかに渡したくないくせに
泣きそうな顔して俺に続けてこう言った。

俺は誰が相手だろうとビビッた事なんてなかったが
その時は心底震えた
わかるか？
感動やハッタリじゃない

真剣の言葉が
ここにブッ刺さったからだ
I ♥
NEYN

答えろ
？

柳が普通の人間に育てたかった冬実が幽霊になっちまった

その事を知った俺はすぐに柳に連絡をとった

そしたら「冬実は今日も元気に学校に行った」とか寝ボケた事言ってやがった

ゲホ

ドン

お前の仕業だろ？

俺も調べたよ

ドドドドド

蘇生法を

ドロ

ドロッ

ドロロ

ドロロロ

何で冬実を生き返らせたい

生き返してそのまま何事もなく帰してやるのがいい…

てっきりお前もそのつもりで俺にあんな真似したのかと思ったんだけどなぁ

ガラ…

……

…何だよ

黙って聞いてりゃ

ズシャ

結局俺をなぶりてぇだけかよ

兄貴に聞いたのか

俺の目的

ベッ

ああ…

お前は人間の冬実から吸血をしたくて蘇生を望んでるってな……

ボウズ

ハッキリ言うぜ

この俺の庭で俺に勝てる魔族はただの一人も居ない

お前を殺すのなんざ超簡単だ

しかしこの魔界で冬実を元に戻す事が出来る魔族は

一人しか居ない

ブラッズは
お前の為にしか
冬実を蘇生させない
と言っている

お前を殺せば
冬実は生き返ら
ない…

かと言って
生かしても…

お前の目的は
冬実の血を吸って
殺す事だ

ドゴ

お前だ…
スタズ

ドドド

まったく…何でこうヒラヒラしたのしか無いかねぇ

あの…洗剤とかあればすぐに…

もう洗いで

あぁいいのいいのそのへんほっといて

……

……

気になる？

だ…だって

戻って来ないから…

？

なぜ？

フ…

フユミンってさ…

お これとかまだマシ…

べんさん・

そういえば…その

スタズさんはどこに…？

ブッチャケ…

スタズの事どう思ってんの？

え…？

…す

好きなの？

……

ざ…ざわ…？

俺だって
わかんねえよ

そんな事

あ？

ふざけんなよ…
そんな曖昧な
返事で納得いくと
思ってんのか

そんな事
言ったって
わかんねえもんは
わかんねえんだ

しようが
ねえだろ

でも血は
吸いてえんだろ

最初は
そうだと思った
けどな

今となっては
本当にそう
だったのか…

じゃあ気になってはいるんだ？

そ…それは
私を生き返らせようとしてくれてるんですし

気になり
ますけど…

生き返して
みないと

わからねえな…
ないです…

すいません…

若さね…

そ…

そう…

なんだ…

ブラッズは
この二人を

どこまで
わかってる
つもりなのかしら

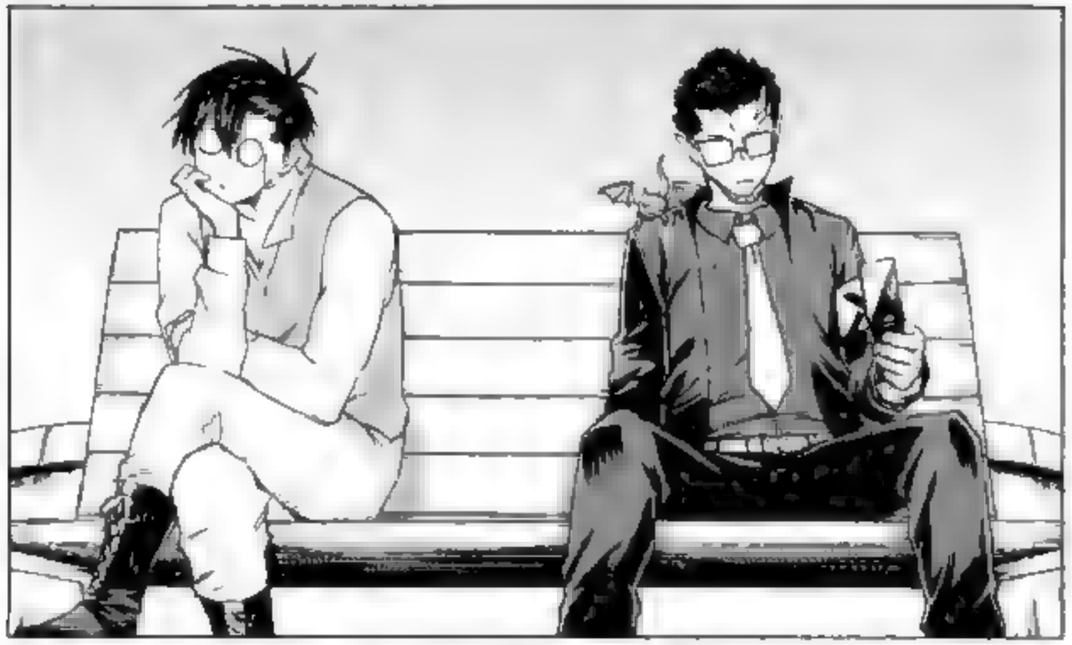
そして私達に
スタズの目的を
止めさせるよう
仕向けたのは

いったい
何のため？

殿堂アイスクリーム

レア度☆

殿堂と頭についてはいるが どこを取っても普通のアイスクリーム。チョコチップとミックスベリーがお子様に人気らしい



……
……

ベロス巡査
ベロス巡査起きてください
ん

…あれ…アタシ…

巡査

ゴイル部長が
お呼びです

ピ

そっちは
どうだ？

だいたい
OKだ

……？

よし…

今すぐ
殿堂街に
来てくれ…と

……

救出完了

ピピッ

第29話♠呪いと誓いの四畳半

BLOODLAD

君は
私を殺すのか…？

……
しかるべく処罰を
下すまでだ

死罪だろ？

普通
ならな…

だが
王はそれを
しなかった…

何故か…？

僕はそれを
突き止めたい
だけだ…

突き止めて
どうする？

それを止す！

フフ…

…面白い

そういえば君に

私はもう王への
不満は何も無いと
言ったが…

あれは嘘だ

だろうな

今でも鮮明に
思い出せるよ

あの瞬間の
事は…

ドクン

ドクン
ドクン
ドクン

その手には…

王の心臓が握られていた…

新たな王が生まれた瞬間…

そして…

私の父が死んだ瞬間だ

正さなければいけない事があるとすれば…

もし…

あの瞬間からだ…

どうしても私の邪魔をするなら…しかたがない…

怒りが鎮火した今の君となら私だって…

何…!?

特権魔術其ノ二

冷静な判断能力（クールデシジョン）

十

ボコッ

ガ

ガ

ゴ

ゴ

ゴ

パキィ…

不意を突かれたがまたも簡単なカラクリだな

こっちの能力は君の冷静さと直結している訳か。

……

リズ…

私が時間を稼ぐ

その間に転送の準備をしろ

はい兄様

ヴィィィン

わかった……

ゴゴゴゴ

!

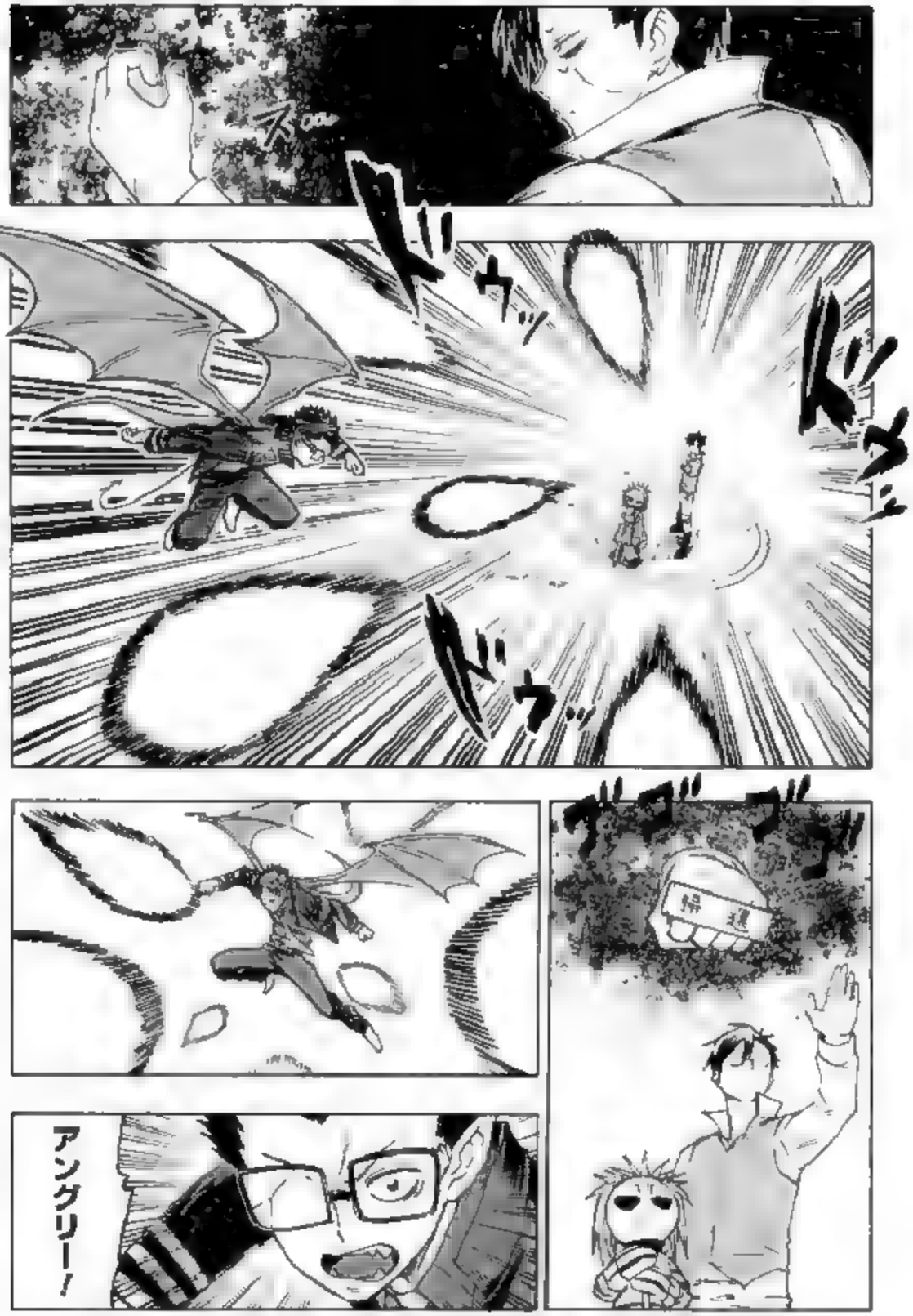
クッ…!

させるか…!

衝撃波か…

ビキビキ

ヴァアッ


ドゴォ
ゴゴゴゴ
アングリー！

ドゴォ
YAHー!!
ドドドドド

ブラーッズ!!
ミュウウウ
YAH!
ガッ
YAH!
ってお前…
ブラッズは
何処だ!?
?

……
リズ…?
…そんな…

馬鹿野郎!!
どうしてお前は
重要な所でいつも
そうなんだ!
この間も…

…もしかして僕か…?
僕の怒りの対象が
ブラッズから
この子に代わって…?
ガクッ
いい所で邪魔されて
イガグリとか
言われたから…?
ああ…僕は…
私とした事が…
自分に来るであろう
攻撃に身構える
あまり…
ガクッ
リズへの警戒を
怠ってしまって
いたのか…?
ああ…私は…

嘘でも
「血は吸わない」
って言っておけば
良かったってかっ

なんだよ…

いいや…

ただ
決めておけって
言ってんだ

何だよそりゃ

？

グシャ

取り返しのつかない
事をしてしまった

ヤー

後悔しても
遅ぇぞ

俺は空間を
操れても時間は
戻せねぇからな

後悔しない
ための決断だ

ちょっと
あなた?
ヘッズ!?

音声が
途絶えたわよ!

聴こえてるの!?

ポイ

これから話す事は
ネインちゃんにも
内緒の

俺等二人
だけの秘密だ

誰にも
言うんじゃねえぞ

ピッ
ピッ
ピッ

パチン

うおっ 今度は
何処だよココ!

俺の部屋だ

ウソだろ
狭っ!!

何だよこのTV
超薄いじゃねえか

マジかよ

何だよお前 急に
俺の攻撃には
メーリアクションだったり
くせしやがって

黙って座っとけ

うるせぇ
俺は空間部屋なら
いくらでも作れるけど

この四畳半か
死ぬほど落ちつくんだよ

そして俺の
途中だった
アンチャーテッドでも
見ながら話を聞け

おいこれ
ウソだろ!?

ゲームか?
ゲームなのか!?

今これ
動かしてんの?

実写!?

黙って座れ

ほー

ようやく
落ち着いたか?

一瞬
一瞬だけ後で
俺にもやらせて…

俺の話を
まじめに
聞いたらな

いいか…実は俺は

条件付きなら
お前と冬実ちゃんを
逃がしてもいいと
思ってる

そうこなくっちゃ

ドドドド

さぁ
続けて
続けて

あ…あのヘアドレッサートかなにいっスロ―

お？

苦しゅうないよ
そういうの
もうちょっと
右下よろしく

して…その条件とは…？

ウム…

これを飲んで
もらう

コロ…

ピタ…

何だよこれ
完全に『呪』って
書いてある

ウ○コ
じゃねえか

ウ○コじゃねえよ!!
主に草でできた団子だ

呪いのな

呪いなのは
合ってんだ

このダンゴは
誓い立ててから
飲み込み
それを破ると
呪われる

随分まとろっこしい
団子だな

じゃあ「誓」って
書いとけよ

そんなのは
この団子を作った
死神商店の
バアさんに
言ってくれ

何だよその
集客する気
ゼロの名前

モゾ

呪

って

ちょっと
集かなかったか？
おい!!

大丈夫 主に
草だけつったろ!!

ちなみに呪いの
内容は明かせないが

かかれば
100パー死ぬ

明かしてる
だろそれ

何だかやけに
うさんくせえけど…

その誓いって
のは…？

あぁ 簡単な事だ

冬実ちゃんの
言葉に2回
従ってもらう

これを誓えますか？

誓えますか？

何だよこんな当たり前の事も誓えねぇのか？

ちょっ ちょっと待て

ち 誓う!! 誓います!!

よく言った

ほら食え

あ そうだスタズちゃん 今からオチって死んで そのまま小ハー化動しっきゃくれません？ 野ってきてくれません？

食べたいんで

とか言われたら無理だぜ。

話を最後まで聞けよ

そんな事言われても

従うと言ってもそういう事じゃない

いいか？ 今から俺の言う事を団子を見ながらよく聞け

一つ…スタズは冬実ちゃんを連れ出す時

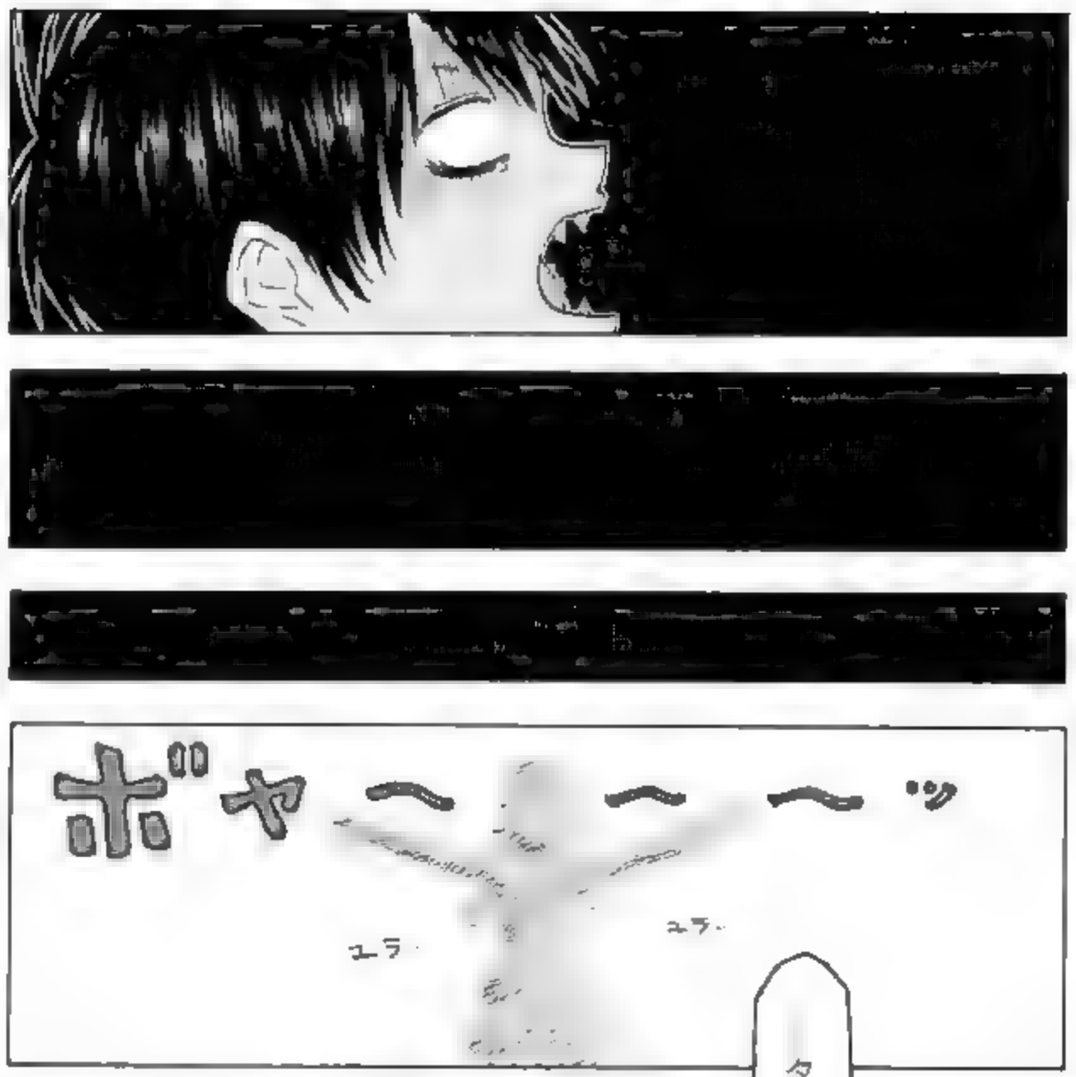
ちゃんと「連れ出していいか？」と本人に問い「YES」の場合のみ連れ出す事

二つ…スタズは冬実ちゃんの血を吸いたい時

ちゃんと「吸ってもいいか？」と本人に問い「YES」の場合のみ吸う事

キャ
よくぞ思いを
切てたわね
スタズ…
それでこそ
男の中の男…

大切なのは
お互いがそれを
望んでいる事…
相手の気持ちを
知り…受け止める
事なのよ…


ボヤ〜〜〜ッ
タズ

スタズ……

あとは俺の
同意か

まったくもう
俺ってヤツは

ボリ
ボリ

I ♥
NEYN

ズブラ…

スタズに
甲子の意見とか
尊重しろとか
いいつつ

ズズズ

自分はネインちゃんを
裏切るような事を
しようとしてる
なんて

でもそんな
ばかりは
ネインちゃんに

ズズズ

俺の意見を
尊重して
もらいたいん
だ

スタズ…

でもくれぐれも
気をつけて…

×裏声

言いを破れば
詳しくは言えないけど
あなたは死ぬわ

あ・はい・
わかりました
んで…

ならいいの…
それじゃあね

シュコ――ッ

ママァ

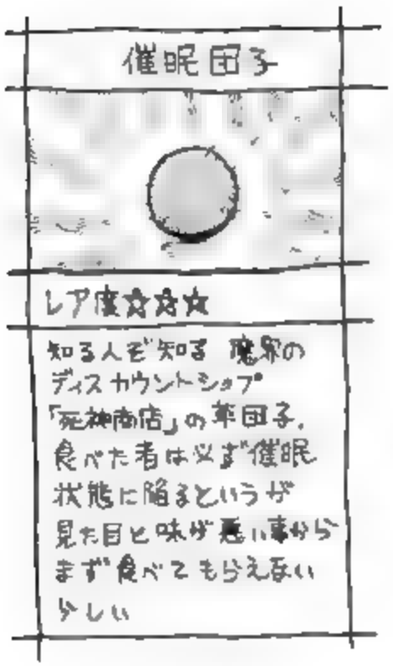
まあ
こんなところが
「呪」って
入れたのは
わざとらし
すぎたか

しはただの
催眠術だった
んだか

これだけ
仕込めば
仕しだろ

これはいったい
どういう事？
へッズ…

俺はもう
柳から
大切な人を
奪うような事は
出来ない
後悔は
したくない


催眠団子
レア度☆☆☆
知る人ぞ知る 魔界の
ディスカウントショップ
「死神商店」の草団子。
食べた者は必ず催眠
状態に陥るというが
見た目と味が悪い事から
まず食べてもらえない
かしい

第30話♠ダークヒーロー

…冬実？

よかったぁ…
自宅むいて
ヨダレ垂れして
死んでだんて
死んでるのかと

ホッ

……

何でここに……？

つうか……
どこだここ…

え？ じゃああの超すげぇ
グラフィックのゲームは？
俺まだやってねえんだけど

な 何の事
ですか？

ほら何てったっけ
アンチャー？

いや
私は知りません
さっきまでここに
居ませんでしたし

……その…

着替えてる
最中だったん
ですけど…

いったい
どーなってんだ？

……

サイズどう？
フユミン

……

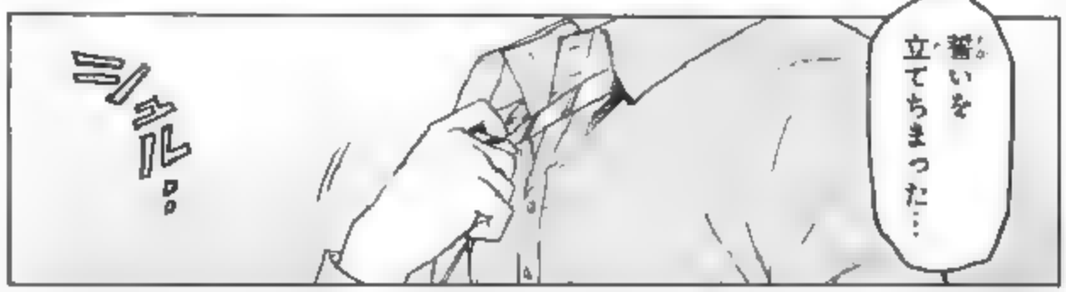
フユミン？

静かに更衣室に居たはずなんですけど

気がついたらここに居て…
目の前でスタズさんが倒れてたんです…

ああそうだ
俺もさっきまでクソ狭い部屋に居た…
それでクソまずい団子を食わされて

そこで俺はクソでかい…
神に会った……
ちょ ちょっと本当に大丈夫ですか…!?
大丈夫じゃねえよ…


誓いを立てちまった…
ミシッ

ここから先は…
お前の気持ち次第だ
え?
?

随分…
強引なやり方ね…
ヘッズ…

会わせるなら
もう少し…
二人に準備か
必要だったん
じゃないの？

裸じゃ
可愛そうでしょ

それで…

君に見つかった後じゃ
そんな暇
与えて
くれないだろ？

ベルにも悟られ
たくなかったし

このタイミングしか
なかった

二人を出口まで乱暴に
空間移動した後は？

逃避行の
手伝いかしら？

よく考えてくれ
ネインちゃん・

あなたこそ

こんな事をして
どうなるかよく
考えたらどうなの

冬実ちゃんには
未来がある

どう進むか
それを決めるのは
俺達じゃないだろう

だからって…

それをあなたは
スタズに委ねる
っていうの？

違う!!

冬実ちゃんの未来は
冬実ちゃん自身に
決めさせてやるべき
だと俺は言ってるん
だよ

その結果
あの子が死ぬような
事になったら
どうするの？

自分の子を
危険な道から
守ってやるのが
親の務めでしょ

それも
違う…!!

あの子の親は…

柳だ…！

ネインちゃん！

あの人は…あの子を守れなかった…

冬実は魔界に来てしまった…

それは俺のせいじゃないだろう！

……俺のせいだ…

俺が王の…

いや…あいつの前で力を見せなければ…

パチ…パチ

パチ…パチ

すごい
すごい

あっちで消えたと
思ったらこっちから
出てきちゃった

いいものを
見せてくれて
ありがとう
ヘッズさん

ん・

ああ
どうも・

・・・悪いなヘッズ

いえいえ
上の頼み
ですから

それで
俺はこの子を連れ
ま ま帰ろうとこない
彼を人間界へ
送り迎えすれば
いいんですか？

……いいや
もうその
必要は無い

バントマイム！

はい　もう十分

？

ええっと俺が
こうやって
よねー？

お・おい

何を
勝手に・

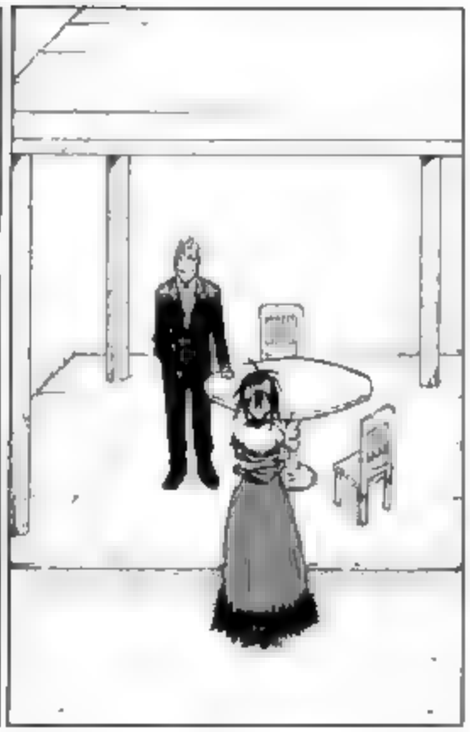
！

ほら

ヘッズ…
お前を信用
してない訳じゃ
ないが・

今回は
こいつの方を
使わせてもらう

何で
今話したの…



ヘッズ…

あなたは悪く
ないわ…

それだけ
必死なのね…

…それは…

王の命令よ…

王に従っただけ…
知らなかったん
だもの…それは
しかたがない事

でもあなたは
その事でずっと
負い目を感じて
いたのね…

俺の魔術を
盗んだのか…!?

いいや…

真似を
してるだけだ

あっ 身長が
伸びたみたい

何のために？

悪いがそれは
極秘だ

記録に残っちゃ
まずい仕務
なもんでね

安心しろ…
用が済んだら
この魔術は
使わせねぇし

お前の立場が
悪くなる様な
事はしない

他言無用だ

ただこの事は
わかってる
とは思うが！

だからその罪悪感から逃げたくて

冬実を帰したいんでしょう？

ただ…

好きにするといい…

それであなたの気が済むなら…

いいわ…

実はもう手は打ってあるの…

！

まさか…また冬実を握う気か…？

まさか、それじゃあイタチゴッコじゃない

今度はプロに頼んだ…

魔界に殺し屋は沢山居るけど…

その中でも最高峰

殿堂魔族をもターゲットに扱う殺しのエキスパート

…スタズを…

殺す気か…!?

当然…彼等は
そのつもりで
臨むでしょうね…

そう依頼した
から

君の譲歩は毎回
エキサイティング
すぎるな…

そう？

ああ…だって
二人はそれを
知らずに

未来を選ぶ事に
なるんだから…

チーム
〝フィアレス〟

またの名を
ヴァンパイアハンターズ

悪いね ここから出たら
何でも好きな服
買ってあげるから 今は
それで我慢してくれよ
……

あの…
どうしたんですか
スタズさん
さっきから
何だか
気持ち悪いん
ですけど…
そんな事
ないよ
普通だよ

いや 絶対
おかしいですって
その無理に
やさしい感じの
口調にしてる
ところとか
いやだなぁ
いつも
こうだろ
ほら慣れない
筋肉使ってるから
ヒクヒク
いってますもん!

ところで冬実さん
あなたに一つお願い…
というか質問が
あるんですが…
接客業なら即クビ
ですよ その笑顔!!
ニコォ
何だよ 質問
させてくれよ
普段通りに
戻ったら聞きます…

ズバリ…
生き返り
たいか?
わかりましたから
何ですか
……
じゃ・じゃあ
まず軽いジャブから
いくぞ…いいか?
これ本チャンじゃ
ねぇからな…
……
そりゃあ…
できる事
なら…

だってそのために
スタズさん色々と
無茶してくれてた
じゃないですか…?
だーもう違えよ
俺が頑張ってる
からとかそんなん
じゃなくだ!!

俺はお前が…
お前自身が本当に
それを望んでんのか
聞いてんだよ!
……?

その…何だ…

思ってみりゃよ…お前

勝手に生き返すとか
言ってる俺に方々
連れまわされた挙句

大事な時にほったら
かされて消えたり、
撲われたりよ…

何つうか
踏んだり
蹴ったりなわけだろ

……

そうですね…

っていうか自覚
あったんですね、
ビックリ
ですよ。

…うっせぇ

それで…だ

それで…

あー俺
何言おうとして
たんだっけ

ちょっと待ってよけよ
すぐ思い出す…

ゆっくりで
いいですよ

そう…それで俺は
悪役なんだって
気付いたんだ…

妙に納得した…
マンガやアニメで
吸血鬼っつったら
大抵悪役だしな

ダークヒーローもの
ってパターンも
あるんだが

どう考えても
俺はヒーローに
あてはまらねぇんだ

そんな時…

ある人から
人間界に居た
ヒーローの話を
聞いた…

ちなみに
そのヒーローは
悪役である俺の
無吹き攻撃で
アイントコントロール
されちまってるが…

え…

それで
わかったんだ……

何で俺が
悪役なのか…
何が足りない
のか…

その答えが…

冬実…お前が
生き返りたいと
望んでいるなら

俺(おれ)はお前(まえ)のためだけのヒーローになれるんだって

え……

え？

と、突然何を言い出すんですか!?

あーもうだから…

生き返りてぇのか!? どうなんだよ!!

い…いきかえりたい…？ です…？

もっとハッキリ!!

腹から声を出せ！

何なんですかこれ…もう

いいからたまにはパシっと言ってみろほら！

……

…考えちゃうんです

私…せっかくお母さんに逢えたのに…

お父さんちゃんと朝ごはん食べたかな…とか…

洗濯物ためてないかな…とか

その…私が居なくて寂しくないかなって…

そんな事ばっかり浮かんじゃうんです…

変ですよね…

私もう死んでるし魔族だし…

私の居場所はここのはずなのに…

スタズさん私…

生き返り…たいんです…

ポン
ハッピーバースデー
ヒーロー
……え
ウハハハハお前のその願い！
俺が叶えてやろう!!
俺が生き返したいからじゃないぞ!!
お前が生き返りたいと願ったから俺が生き返す!!この図式!!
どーん
そうこの瞬間…
ドドド

ほら面白ねぇだろ…

ヒク

わっ わかりました その顔に比べたら 全然問題ないんで やめてくださいそれ！

ダク ダク

ったく始めから そう言えよ!!

危うく生まれた ばかりのダーク ヒーローが即死する とこだったじゃねえか

あの さっきから その話まったくついて いけてないんですが…

ちゃんと 懐いをぶった ようだな…ボウズ

ダークヒーロームムムは マンガの見すぎだが これで一つ大人に なったじゃねえか…

だがその先に 待ち受けている ものは

お前にとって 過酷すぎる 試練かもしれない

この防衛隊長を 納得させるには

ズズズズズズズズ

忘れるな本当の ヒーローに なるのなんざ 夢な

懐けだぞ… ボウズ

本当に…

いいのね？

それは俺 じゃなく… スタズに聞いて やったら？

それを聞いて諦めるくらいの奴なら

あなたはこんな提案乗らないわ

――そう…

ヘッズはね…

開けたよ…

ぴっ

ぴっぴブラッズは…

どうかしら

スタズと冬実がハイドラを出て行く事にな

あなたは私が二人を逃がすなんて

予想してたかしら…

反応が楽しみだわ…

送信しました

例の殺し屋にもう連絡？

あら私言ってなかったかしら

そっちの連絡はすでにしてあるって

ゴォォ

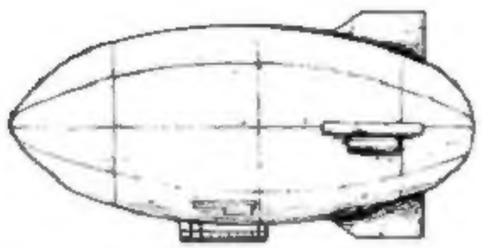
もう準備は出来てるのよ

オオオ

TEAM FEARLESS

吸血鬼狩りは…

♠つづく♠



To Be Continued

魔界に生きる

ベロス編

今回は魔界の殿堂ポリス
ドドドドド
うおおお
ベロスさんに…って何ですかコレうるさいですね
寝起きだと誰だかわかりませんね
○。
ピピピピピ
どうやら目覚まし時計だった様です
ナチ
留守番電話が1件です…
ピッ
おうベロス 俺だアンビーだ
今度 ライブで売る俺たちの音源は最高にクールな出来だが
どうもジャケットのデザインがしっくりこねぇんだ
FAXしたから感想聞かせてくれないか？

EVIL Potato

……

……いや

カッコイイんじゃないか？

それマジで言ってます？

どうやら彼女は警察の業務とは別の活動もしている様です

ウチのバンドハードコアバンドっスよ？

何でそんなに嬉々と上司にそんな話をされてもだな…

ほら部長コンピューターとか得意じゃないスか

その力でこの娘をもっとハードコアっぽくして下さいよ

無茶言うな！第一僕にはやらねばならん仕事が山ほどあるんだ

じゃあそれ私が全部片付けとくっスよ

彼女は大抵の物事をノリで決めます

そしてけっこうすぐ後悔します

えーとこれはこっちの棚で…

このファイルは…

ああもうめんどくせえええ

だからその件の事私は知らねーっつってんだろ

だからいつもの人を出せって

うっせえタコ!! 帰れ!!

あー確かにコリャ大事件だろ？

人の脱皮した皮をこんな風にディスプレイするなんて許せないよ

ああとんだ迷惑だよな…こんな事で通報してくる奴とか…

176

バタン

あー スーパーだるかったぁ

でも

何だかんだ文句を言いつつもちゃんと仕事はするのでした

んでそろそろ出来たっスか？部長

うむ…まあ自分で言うのもなんだが…

EVIL Potato

けっこういい出来なんじゃないかと…

アッハッハッハッ

何でムチ持ってんスか!?

ハードコア…を意識してみた結果だ

イイっスね！部長の陰湿な感じがよく出てるっスよ！メガネも描いたらどーすか？

おいおいコンセプトはどうした…

はたして…このデザインが通ったかは定かではありませんが…

ジーッ

彼女はその日他のメンバーに絵を見せながら

どーよこれ!! 良くない!?

私の上司マジブッ飛んでるっしょ

これでいこーぜ!!

ノリノリだったという

END

BOOK☆WALKER

角川コミックス・エース
ブラッドラッド(6)

著者：小玉有起

発行日：2012年6月4日
発行者：新名 新
発行所：株式会社 角川書店
©Yuuki KODAMA 2012

角川コミックス・エース
『ブラッドラッド(6)』
(2012年6月4日初版発行)に基づき制作